

## 平成23年度第7回新潟市清掃審議会会議概要

開催日時	平成24年1月31日（火）午後3時00分～午後5時00分	
会 場	新潟市役所本庁舎6階 第4委員会室	
出席者	出席委員	藤井会長、松原副会長、菊野委員、柴田委員、渡辺委員、植木委員、熊田委員、坂田委員、椎谷委員、中澤委員、橋本委員、宮尾委員、山賀委員、山下委員 計14名  (欠席 皆川委員)
	事務局	環境部長、廃棄物政策課長、廃棄物対策課長、  廃棄物施設課長 ほか
主な議事	1 開会 2 議題 (1) 一般廃棄物処理基本計画（素案）に対する パブリックコメントについて (2) 新計画のキャッチコピーについて (3) その他 3 連絡事項 4 閉会	
主な議題等	<審議の進め方> それぞれの議題について資料に基づき事務局が説明を行った後、審議委員からの意見・質問を受け審議を進めました。	

## <議題>

### ■新潟市一般廃棄物処理基本計画（素案）に対する

#### パブリックコメントについて

- **資料2**のP38で「使用済小型家電等の新たなリサイクルの推進」とあるが、小型家電の定義がよくわからないので、第5章の用語集に追加してはどうか

市～ 現在国において使用済小型家電のリサイクル制度構築に向けた検討がなされているが、その対象品目は最近の報道によると、家電リサイクル法対象品目を除く家電製品で、96品目といわれている。この品目数で固まるかどうかは現時点で分からないため、一般論として小型家電について記載できるか検討させていただきたい。

- **資料2**のP38(4)の本文1行目で「～リサイクル活動など市民・事業者一体となって取り組む」とあるが、その下の具体的な推進策では「市民・事業者と協働した生ごみ減量運動の推進」とある。「一体となって」と「協働」はどういった使い分けをしているのか。

市～ ニュアンスとしては近いが、文章の流れで使い分けしているという部分もある。ただ、ご指摘の部分は本文と具体的な推進策が異なっており、違和感を与えるかもしれないので、具体的な推進策の部分の「協働した」を「一体となった」に修正させていただく。

- **資料2**のP13⑩ウの「環境教育の取り組み」では、対象が幼稚園となっているが、保育園は入らないのか。できれば低年齢層に対する環境教育という点では保育園も変わらないため、保育園も対象に加えてもらいたい。

市～ この表は平成23年4月現在の一覧である。平成24年度以降、新しい基本計画の方針を踏まえ、低年齢層向けの環境教育を充実させていくなかで、保育園も対象にしていく予定である。

#### ■新計画のキャッチコピーについて

- **資料4**にあるキャッチコピーの案だが、市民のモチベーションが上がるよう、目標値を入れてはどうか。

市～ 今回は大きな制度変更を伴わない計画であるため、31年度の目標値は20グラムとしている。前計画の100グラムダイエットに比べインパクトは弱いですが、今回は3Rをより認知してもらうため、「3Rシティ・にいがた」とした。

- サイチョは市民に浸透しているので、「サイ・挑戦（※前計画のキャッチコピー）」は生かした方がよいと思う。

- リサイクル率が平成21年度で全国第3位（政令市中）になったので、「おかげさまで第3位」などと、市民へのお礼を入れてはどうか。

- 上をみてがんばるという意味で、「めざせ日本一」のような言葉を入れてはどうか。

- 市民一人ひとりに取り組めるような、身近な内容を盛り込んではどうか。たとえば「できることからはじめよう」といった感じに。
- 「日本一」とすると、計画上の数値目標と乖離すると思われる。今後気をつけなければならないのは、リバウンドではないか。
- **資料4**にある事務局案の「リデュースミッション」などは、すべての世代が分かるだろうか。より平易な表現に改めてもよいのではないか。
- 委員からのキャッチコピーの提案は2月1日17時を締切として、事務局に提案することをお願いしたい。

委員からの提案を事務局で検討した結果、最終的に以下に決定した。  
『81万人のエコな暮らしサイ挑戦 めざせ3Rシティ・にいがた』

■その他（事務局報告事項）

- （ ・ 白根グリーントワーの中継施設化について  
・ 巻広域におけるプラスチック製容器包装の分別制度化について ）
- 白根グリーントワーの焼却休止について、中之口地区は白根広域だが、行政収集の燃やすごみを鋳湯に入れることにより、地区住民は巻広域の分別ルールになるのか。  
市～ 中之口地区の分別ルールに変更はない。
- 巻広域のプラスチック製容器包装の分別制度化について、反対する住民もいて混乱が予想されるが、どのような対応をとるのか。  
市～ これまでモデルとしてプラ容包の拠点回収を2年間行って住民理解が進み、地域からの分別制度化の要望書を受けて、この度の制度化に至った。これを踏まえ、市としては地域に丁寧に説明を行い、理解を得ていきたいと考えている。

傍聴者	1名
-----	----